



# たいさんぼく

平成30年度 学校だより春休み号  
小平市立小平第十三小学校  
<http://www.kodaira.ed.jp/13kodaira/>

## 「祝歌」よ 今年も 高らかに

副校長 柴田 英文

校庭の白木蓮が、爛漫と白い花卉を咲き誇らせて、寒く厳しかった季節に別れを告げています。この花が咲くと、いよいよ修了式・卒業式になったと感じます。

十三小の卒業式には、毎年歌われる「祝歌」(作詞 有間儀朗 作曲 青山尚志)というオリジナル曲があります。この歌は今から10年前の開校40周年の際に作られたと伺っています。その後、毎年の卒業式で歌い継がれてきました。6年生と5年生が互いに語り合うように掛け合いながら進行する合唱曲です。その歌詞に「重ねた日々の思いはきっと 明日につながる力になるだろう。」との一節があります。

この1年間、6年生たちが重ねた日々の思いはどのようなものだったのでしょうか？6年生は改めて自分たちでこのことを話し合いました。

そして、「十三小スピリッツ」として次の3つのキーワード「信頼・勇気・元気」を掲げることにしたそうです。担任がしみじみと話してくれました。3月5日に行われた「6年生を送る会」には、体育館の会場入口に大きく貼られた3つの文字が印象的に光っていました。



たてわり班給食

子どもたちが自らを振り返りながら考えていることに感心させられます。特に私が感心したのは、6年生が自分たちの行動理念に「信頼」を挙げている点です。彼らは5年生から1年生までの後輩から信頼される存在になろうとこの1年間努力してきました。日々の生活で、運動会や音楽会の行事で、委員会活動の場で、特にたてわり班の小グループ活動では、全ての6年生が模範として振る舞わなければなりません。信頼される人になろうと努力した6年生が自分らしい明日につながる力をきっと獲得していると信じています。

一方、5年生は6年生の努力する姿をこの1年間つぶさに見てきました。6年生が醸し出していた信頼感を、今度は自分たちが発揮しなければなりません。卒業式の練習で見せる真剣で緊張した5年生の表情は、先輩たちの心の一端に触れて、何かを感じ取っているかのようです。

保護者・地域の皆様の多大なるご理解・ご協力により、1年間、教育活動を進めることができました。ありがとうございました。修了式、卒業式を一つの区切りとして、また一步先へ進みます。

新元号となる次年度も、全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほどよろしく願いいたします。